

【トラック9】

まる「いらっしやいませ、喫茶マルへようこそー！」

まる「あ...お兄さん...こんにちは」

まる「くすっ、お兄さんも好きものですね〜、最近よく来てくれるじゃないですか！」

まる「ひょっとして...マルのことが好きになっちゃったとかあ？...なんて♡」

まる「それで...今日は何にします？ お好きなご注文をどうぞ〜」

まる「あ、今日はですねー、ちょうど新作のスイーツを開発しまして...

まる「お兄さんにも食べてもらうかなあっとっ！」

まる「そうではなくて...？あ...表の貼り紙、ですか...？」

まる「あはは...さすがお兄さん！お店のファンとしてしっかり見てますねっ！」

まる「そうなんです、お店を...ちょっと、閉じようかと思ひまして...

まる「本当はもっと、今のままで頑張ってたんですけどね...」

まる「でもどうしても...色々と限界が来ちゃって...

まる「でも、良かったです！最後にお兄さんが来てくれて...

まる「マルも、その...会いたかった、ですから...」

まる「たはは...マルは大丈夫ですよ〜、それより」

まる「とびっきり美味しいスイーツをご馳走するので新作、食べてくださいよう！」

まる「高級なフルーツをふんだんに使ったタルトでして...

まる「生地はマル特製のブレンドを使っていますっ！」

まる「サクッとしたパイ生地の食感と、口の中で蕩けるような甘酸っぱさが...あ、はは...

まる「お兄さんにそんなお顔をされると...マル、困っちゃいますよ...ばかですね...」

まる「ねえ...お兄さん？...最後にマルのお願い、聞いてくれませんか...？」

まる「マルの最後の特別コース、ご注文していただけますか...？」

まる「くすっ、正真正銘...お兄さん専用のお店裏メニューです♡」

まる「たった今、考えたんですけどね...！」

まる「いいん、ですか？...あ、ありがとうございます！」

まる「最後だからいくらかでも注文するなんて...もう」

まる「マルはしっかり者の経営者なので、料金はきっちりいただきますからね！えへへ♡」

まる「お支払いはいゆっくりでいいんです...そうすれば、お兄さんにまた会えますから」

まる「それでは、お店を閉めてくるのでちょっとお待ちくださいね...

まる「言ったじゃないですか、お兄さん専用の裏メニューって♡」

まる「今日は二人きり...なんの邪魔も入らない環境がいいなあと思って」

まる「といっても、そもそも閑古鳥が鳴くような店ですけどね」

まる「お店の奥に大きなソファがあるので...そちらで待っていてください」

まる「ねえ、お兄さん...最後、楽しみましょうね！」